

# 世界の民族衣装展



今年度 第一回目の世界の民族衣装展は、「タパー樹皮から作られる多様な布」と題し、パプアニューギニアやフィジーなど南太平洋の島々やインドネシア、中央アフリカなどで作られている樹皮を材料とした、織ったり編んだりしない布をご紹介します。

タパとは、樹皮の内皮を剥いて水に浸けたり煮たりして柔らかくし、木槌などで叩いて伸ばし適当な厚さと大きさに仕上げたものです。タパに描かれている文様は、黒や赤褐色の染料を使用して、手描きや型版などで描かれており、パプアニューギニアのタパの文様は、日本の家紋のように氏族や家族を示すものや、伝説や神話の由来などが描かれていると言われています。また、衣服として身につけるだけではなく、敷物、寝具、住居の装飾や祭儀の贈り物等様々に使用され、人々の生活にとって重要な役割を果たしている布です。身近な素材を用いて丹念に作られ、大胆かつ繊細な文様が力強い印象を与える布「タパ」を展示いたします。

染織資料展では、代々受け継がれてきた衣装の技法や色彩等、美しく素晴らしい染織資料をご紹介します。是非この機会にご覧ください。

## 平成30年7月3日（火）～ 8月5日（日）

会場 桐生地域地場産業振興センター  
4階「資料展示ホール」

開催時間 10:00～16:00

休館日 月曜日 入場料 無料

